

前向きに挑戦する福井の企業を応援します

F-FACT

ファクト > Fukui advanced companies' try

[特集] 若者の攻め手
～若手経営者に迫る～



Vol. 63

「お手伝い×旅」で 人手不足の問題解決に挑む

昨今、さまざまな産業分野で耳にする「人手不足」の声。その問題を「旅」というキーワードで解決しようと挑むのが、東京都に本拠を置く株式会社おてつたびです。同社は2019年、『おてつたび』という人材マッチングサービスを始め、コロナ禍を乗り越え着実に事業を展開。『福井ベンチャーピッチ』登壇歴もある代表取締役CEOの永岡里菜氏に、サービスの概要、起業の経緯、今後の展望などについてお話を伺いました。



代表取締役CEO 永岡 里菜 氏

DATA

株式会社おてつたび

所在地:東京都渋谷区代々木3-31-12
代表者:永岡里菜氏
資本金:7,028万6,500円 従業員数:14名
事業内容:『おてつたび』を基盤にした有料職業紹介事業
U R L <https://otetsutabi.com/>



同社HPはコチラ!

地域特有の仕事体験 職業選択の豊かさ提示

『おてつたび』は2019年に始まったサービスで、短期的・季節的な人手不足で困る各地の事業者と、報酬を得ながら仕事を通じて地域と交流したい利用者とのマッチングプラットフォームです。サービス名は、旅とお手伝いを掛け合わせた造語に由来し、現在の利用者は約4・9万人。同社が「おてつたび」と名付けた利用者の5割は20代で学生も多く、総じて地域社会への関心が高い傾向があるそうです。

一方、おてつたびと受け入れる登録事業者数は約1200件で、農業などの第一次産業、観光業などの第三次産業で計約8割を占めます。そのほか、祭りの受付、日本酒のラベル貼り、ふるさと納税の発送業務など。永岡氏は「地域では当たり前前の日常も、ある人から見れば

『一生に一度はやってみたい仕事』。社会に出る前に職業の選択肢を知ることのできる、私自身が学生の時に欲しかったサービス」と話します。

三重県出身の永岡氏は大学卒業後、いくつかの企業を経ながら、余暇など空き時間を使って自身の関心事に力を注いできました。その一つが「食」です。以前から食に興味があった永岡氏は、土日などの空き時間を使って飲食店で



宮城県でのワカメの刈り取り。おてつたびを通して地域特有の経験・体験ができます。

働いたり、フードコーディネーターの資格取得に励んだ

りと知識や技術を向上。自身の関心が食の背景にある歴史や作り手の思いであることに気がきます。

そして「食文化も地域を構成する一要素」という考えか

ら会社を退職。半年かけて全国各地を訪ね、地域をめぐる中で耳にした短期労働力不足の声をきっかけに起業プランを練ることとなります。

お手伝いで地域とつながり 人・経済・思いが巡る世界へ

立ち上げは2018年、27歳の時でした。マッチング後に自身が一緒に手伝いに行くなど、一人何役もの多忙な日々を送る中、2020年1月、2人の仲間を迎え入れます。その矢先に起こったのがコロナ禍。サービスが徐々に認知され、受け入れ先も増えてきた時期だけにダメージは小さくありませんでした。

「採用した以上、メンバーを路頭に迷わせるわけにはいかない」と逆覚悟ができました。『ピンチをチャンスに』とはしばしば言われますが、世の中が止まった時に自分たちの動き方を徹底して考えたことが今につながったと思います。『仲間がいる。一人だけの会社じゃない』という自負も前向き力になりました。永岡氏は当時を振り返ります。

新型コロナの5類移行後、

観光需要の回復で『おてつたび』受け入れ先が増えた感触を得ていると話す永岡氏。第一次産業でも、円安で技能実習生の確保に苦慮するなどの影響で人材需要の高まりを感じているそうです。

永岡氏は「人手不足の現場に行きますので、事業者さんにはおてつたびとお客様ではなく、普段の現場で働く仲間の一人として受け入れてほしい」と呼びかけます。「おてつたびとは地域の役に立ちたい」という思いで参加しています。そのため、地域の方が困っている事をお願いして役に立てることがおてつたびと(利用者)の満足度につながります。また、地域の方の当たり前と都市部に住む利用者のギャップを減らす工夫も。虫の発生に関する情報やスーパリー等の小売店までの距離などをサイト内で可視化することで、双方のミスマッチを減らしています。

さて、今後の展望を尋ねた

ところ、永岡氏から「作って育てていく縁」という言葉が返ってきました。「お手伝いをきっかけにその地域が好きになるファンを増やしたいですね。お手伝いをした人が年に1回顔を見せたり、関わった地域の産品を買ったりすれば地域経済が回る。人と思えばお金が巡る世界をつくりたいです」

旅とお手伝いを掛け合わせたサービスを軌道に乗せる過程で、時にスキル不足を感じたこともあったそうですが、永岡氏は「今までなかったものを形にするために試行錯誤してきた自負はある」と話します。起業前夜から今日までを振り返り、「起業はあくまで一つの選択肢です。誰もが起業する必要はないと思えますし、組織に属する働き方も素晴らしい。大切なのは自分らしく働ける姿を追い求めること」と締めくくりました。



旅館でのおてつたびの様子。おてつたびは旅館や農家などが中心です。

若者の攻め手

若手経営者に迫る



デジタル化の必要性や若者の消費・働くことへの意識変化が話題になることも多くなりました。このような状況への対応が企業に求められる中、若手経営者の事業発想の着眼点や考え方には気づきや学びも多いのではないのでしょうか。

内容は様々ですが、福井県内でも若手経営者の事業が動きを見せています。今回の特集では、若手経営者の発想や思考を探ります。読者の皆様のご参考になれば幸いです。

専門家インタビュー

若手起業家による事業発想とは

若手起業家の事業発想のポイントはどこにあるのでしょうか。ここでは、いやさか創研株式会社代表取締役、NPO法人アントレセンターの代表を務める、高原裕一氏へのインタビューをお届けします。多くの若手起業家の支援を行ってきた感触を基に、事業発想のポイントや若手起業家の傾向、事業を軌道に乗せるために必要なことといった内容を伺いました。

——若手起業家の考え方に傾向や変化はありますか。

ひと昔前と比べ、野心を持つて起業を考える人が少なくなってきたと感じています。地に足をつけて、小さくても自分の得意分野で起業

する方が増えている印象です。また、最近の若手起業家の事業内容は身近な困りごとからスタートしていることが多いです。部活動等で塾に通いづらい学生に向けて、オンライン学習塾で起業した古家一さんや、吹奏楽部の楽器不足を解決するために楽器シェアアプリで起業準備

事業を発想する時のポイントと起業時の心構え

若手経営者が事業を見出すときの着眼点

- No.1** ナンバーワンを獲得できる
競合に勝ち、特定市場でNo.1で居続けることができる戦略があるか？
- Vision** 魅力的なビジョンがある
周囲の協力が得られ、自身もワクワクする、魅力的なビジョンがあるか？
- Unique** ユニークである
若手だからこそ、特定市場を知り、独自性のあるビジネスであるか？

若手経営者の事業開始時の留意点

- 心** マインド
 - 失敗は織り込み済み、次の成長の糧に。
 - 先行事例を学び、独自の道を拓く。
 - あきらめない覚悟で、忍耐力を育む。
- 技** スキル
 - ビジネスマンとしてのコミュカを高める。
 - 若者独自の視点やネットワークを活かす。
 - 行動し、人に会い、良い縁を育てる。
- 体** リソース
 - 月次・年次資金計画と公的支援施策の活用。
 - 経験不足を補う優秀なメンターを側に置く。
 - 中核人材以外は外部人材との提携も考える。



いやさか創研株式会社
代表取締役
たかはら ゆういち
高原 裕一氏

広告代理店勤務後、コンサルティング会社パートナーを経て1995年にコンサルティング会社有限会社ビジコン設立。2003年には起業家を排出する特定非営利活動法人アントレセンター設立に参画。同センターでは福井発！ビジネスプランコンテスト、起業家教育、学生向け起業家体験講座などの事業を通し、起業家の創生と地域に貢献する人材育成を支援している。



を進めている山下さんなど、身近な課題を解決するという観点で事業を発想していますね。困りごとから発想された事業は周囲からの共感も得やすいですし、共感が得られれば協力者も現れやすいですから、こうした発想での事業は伸びていく可能性が高いと思います。

相談を受ける中では、最近の若手起業家は素直で謙虚な方々が多い印象です。個人の能力にはどうしても限界がありますから、起業を行う上でこうした姿勢は大切だと思えます。事業を進めていく中で失敗は必ずといっていいほどつきまといまいます。失敗した時には周囲の助言を受け入れて修正し、再度挑戦することが必要です。失敗から立ち上がるという場面でも、素直で謙虚な姿勢は重要ですね。

——事業を継続・成長させていくために必要なことは何でしょうか。

先ほどもお話ししたように失

敗はつきものですが、失敗していかなければ事業が成長していくことありません。失敗を見つめ直して修正を行い、再度挑戦する…これを繰り返していくことで自社独自の商品・サービスを作り上げることができまます。目先の利益に囚われてしまうと、全く別の事業に手を出してしまうという風に、上手く修正することができなくなりますが、何を目的に始めたのかといった事業の軸を明確にしておくことも必要ですね。

もう一点、事業を継続・成長させていくためには事業に関係するキーマンと出会うことも重要です。自分はこの課題があると考え、解決するためのビジネスを、と考えても実際の課題は全く別の所にあるということも少なくありません。真の課題を知る人と繋がることで、本当に価値のある事業を生み出すことができるということもありますので、キーマンと出会うための行動をしていかなければなりません。ビジネスは一人では完結できませんから、人と出会うために行動していくことも大切になってきます。

福井発！ビジネスプランコンテスト2023 最終選考会が開催されます！

高原氏が実行委員を務めるビジネスプランコンテストが2月17日(土)にハピリンホールで開催されます。会場・Webどちらでも参加ができますので、ぜひご参加ください！ [詳細は6ページへ！](#)

整っていますから、起業に割くことができるとは、起業に割くことのできるリソースも多しといえるのではないのでしょうか。起業し、事業を進めていく中で行き詰まることが出てきたら、誰かに相談すること一つの手です。自分以外の方からフィードバックを受けることで、事業に対する解像度が上がるということもありますからね。

学生・若者の感性に触れられるイベント、施策情報

福井発! ビジネスプランコンテスト2023 第20回記念大会

一次選考を通過したプランのプレゼンテーション最終選考会に入場・視聴できます。

日時 令和6年2月17日(土) 14:00~17:30(13:30~受付)
場所 ハピリン3階ハピリンホール(福井市中央1-2-1)
内容 グランプリ、準グランプリ、スポンサー賞、特別賞など(一般の部、学生の部あり)

一般の部	将来起業や新たな商品・サービスの開発や提供を考えている学生や社会人、またはそのグループ	学生の部	県内外の中学生以上の学生、専門学生、大学、大学院生、またはそのグループで夢のあるプランを持っている人
-------------	---	-------------	--

お申込み・お問合せ先 **福井発! ビジネスプランコンテスト2023 実行委員会事務局**
 担当: 高原 TEL 090-3297-8609
 ※3~4ページで高原氏のインタビューを掲載しています。



ものづくり企業魅力発信支援事業

県内外の高校や大学、専門学校などの学生等との交流事業など、若者との共同事業を自ら企画・実施した製造業者に対して補助金を支給します。

※予算額に達し次第、募集終了
補助額 個社: 20万円
 グループ: 40万円



学生起業応援事業助成金

※2023年度現在。年度によって変わります。

大学での研究成果や斬新なアイデアを活かして起業する学生等(在学中もしくは卒業、中途退学されて1年未満の方)に対して、起業に必要な経費を助成することで、若者によるビジネス創出のチャレンジを応援します。

※募集人数8名(上限に達し次第終了)
限度額および助成率 助成率10/10(上限95万円)

イベント等で学生起業家のビジネスプラン発表なども行っています。

お問い合わせ先 (公財)ふくい産業支援センター
 新産業支援部 ベンチャー・Eビジネス支援グループ
 TEL 0776-67-7411 Mail ebiz-g@fisc.jp

ふくいソフトウェアコンペティション

(公財)ふくい産業支援センターでは、ソフトウェア技術を担う人材の発掘、育成、確保を目的として、プログラム等の作品を公募し、その優秀性と先進性を競うふくいソフトウェアコンペティションを実施しています。優れたアイデアと技術力で今年大賞を受賞したチームの作品をご紹介します。

ふくいソフトウェア大賞

作品名 チャリレコ
出品者 福井工業高等専門学校
(敬称略) 藤野間奏人、山腰大輝、中西奏一郎

自転車の前後に取り付けたwebカメラから得た画像を解析し、10m以内に人や車がうつった時に、その情報をARグラスに送信、前後のどちらで検出したのかARグラスに表示する仕組みを開発。昨今、ヘルメット着用が努力義務化され、自転車保険への加入が勧められるなど、事故を防止するソフトウェアに需要があると考えたのがきっかけ。ARグラスを使用することで視界を占拠することなく警告が可能。グラス以外に体に装着するものが不要で、運転を妨げず利用できる工夫がされている。

※10ページに関連情報を掲載しています

学生起業家 ビジネスプランの ご紹介!

県内で活動する学生起業家のビジネスプランを紹介します。これから事業化するものや今後本格的に展開していくものもありますが、若い起業家ならではの発想や時代感覚を感じ取っていただけるかと思えます。

プログラミング教室を 運営



コアット代表
齋藤 恭子 氏
星槎大学2年

子供向けのプログラミング教室を県内3カ所で運営。カリキュラム形式のレッスンではなく、一人ひとりの興味に応じて教材を選定するオーダーメイドの学習プログラムが好評。
 現在、無償のテクノロジ施設「まぜテクノ」をあらわら市に開設準備中。10代がテクノロジを通していろんな人や社会と「混ざり合う」場所づくりを目指す。



気軽に質問できる アプリを作成



(株)quelmap
森本 新太郎 氏
高志高校3年

授業などでわからないことを匿名で質問でき、回答を受け取れるアプリ「quelmap」を開発。コロナ禍で登校できず質問がしづらかった経験が元で発案。元々プログラミング好きだったためアプリは自作。県内2校に試験的に導入し運用中。
 これまでの要望を元に改良を加えて、大学進学後、本格的に利用者拡大を図る予定。



学校間で楽器をシェアする アプリを作成



やましたともき
山下 友輝 氏
武生東高校2年

楽器が古く上達しにくい、やりたい曲ができない、人気の楽器は回ってこないの違う楽器の担当にさせられる等々、吹奏楽部の悩みを解消するために学校間で楽器をシェアするアプリを作成。他校の顧問間の交流から、合同演奏会やプロを交えた練習会の開催、各校で折半して楽器を購入する等のきっかけづくりとなることも目指す。

オンラインで学べる 学習塾



KOGE塾 塾長
こじまかずお
古家 一隆一郎 氏
福井大学4年

部活動や習い事などで通常の時間帯には塾に通えない学生・生徒を対象に、夜間に自宅からオンラインで学べる学習塾を運営。グループ指導とすることで、競争し切磋琢磨して学習する環境を作っているのが特徴。
 現在は福井駅前にも教室を構え、対面での授業も行っている。成績向上だけでなくそれ以外の何かを提供できる塾を目指す。



CASE 2

Vtuberプロダクションを設立 福井県にエンタメ文化を



福井県のクリエイターが制作したVtuberのキャラクター



同社HPはコチラ!

2022年、福井で初めてのVtuberプロダクションとして設立した株式会社glow。若者の価値観に合わせたキャラクターによる企業PR活動の支援やアプリ開発も行っています。会社設立の経緯や採用活動における若者へのアプローチといったお話を代表取締役CEOの嘉門大助氏に伺いました。

DATA

株式会社glow

所在地: 坂井市丸岡町熊堂第3号7番地1-16

福井県産業情報センタービル

代表者: 嘉門 大助氏

事業内容: Vtuberプロダクション事業、
アプリ開発、システム開発事業

URL: <https://glow-hakumei.com/>



代表取締役CEO 嘉門 大助 氏



同社事務所内には企業の採用ポスターも

**Vtuberを通じて
福井県にエンタメ文化を**
嘉門氏がVtuberプロダクション設立に至ったのは2022年のこと。福井県にエンタメ文化を根付かせたいとの想いからでした。「福井県にも有名なクリエイターの方がたくさんいます。そうした方々とともに福井県を盛り上げていきたいと考えたのが始まりです」
当初は5人のVtuberが所属。現在は8人が所属しており、2期生の募集の際には100人以上の応募があったそう。嘉門氏は

「Vtuberは才能があるけれども、体にハンディキャップがあったり、人前に出るのが苦手という方でも活動できます。また、場所を選ばずに活動できますから今の時代のニーズに合っているのだと思います」と話します。
キャラクターによる採用活動の支援も
他にも同社は、Memory nator株式会社(坂井市)と協力し、キャラクターによる企業の採用活動支援も行っています。オリジナルのキャラクターを作成し、採用ポスターやホームページ、サイネージに登場させ、応募数を大きく伸ばしている企業もあるそう。嘉門氏は「中小企業にとって採用活動は課題の一つだと思います。合同説明会でもまずは自社のブースに足を運んでもらわなければいけませんから、キャラクターは若者に自社に対する良いイメージや興味を持ってもらうために有効なツールです」と

説明します。キャラクターを活用する企業も徐々に増えてきているそう。同社は現在、キャラクターによるリクルートを実践する企業を集めた合同説明会も計画中です。
今後はメタバースでの活動も視野に
最後に同社は、今後の展開として「仮想空間(メタバース)での活動」を挙げます。「まだまだ壁はありますが、Vtuberがメタバース上で配信をしたり、コンサートを開いたりといった活動ができるようになっていくと面白いし、より質の高いファンサービスを提供できるようになるはず。メタバースでの活動は設立当初からの目標でもありますね」と嘉門氏。「Vtuberプロダクションを通じてクリエイターの育成を行いながら、仮想空間がもっと身近になった時に先行して活動していけるように準備をしていきたいですね」と力を込めます。

INTERVIEW

社会起業と 事業継続のために

福井県まちづくりセンター代表 竹本 祐司氏

近年、若者の社会課題解決に関する意識が高まっています。ここでは、社会起業家の育成を行う竹本祐司氏へのインタビューをお届けします。社会起業家を伴走支援されている中で、その感触を基に、社会起業家に必要なことや発想のポイントを伺いました。



福井県まちづくりセンター
代表

たけもと ゆうじ
竹本 祐司氏



同社HPはコチラ!

竹本氏プロフィール

21歳で起業。同時期にまちづくりボランティアを開始しイベントを企画・実施する。福井駅前のテナント誘致を成功させ、その後2020年に民営のまちづくり会社福井県まちづくりセンターを設立。自身の経験を基に地域課題を解決する人材の育成を行っている。

DATA

福井県まちづくりセンター

所在地: 福井市中央1丁目9-24 福井中央ビル3階

事業内容: 地域活性化事業、まちづくりプレイヤー育成、
地域活性化に揃える社会起業家の育成など

URL: <https://www.machidukuri.fukui.jp/>

「そもそも社会起業家とはどのような方々なのでしょうか」
私は、まちづくり活動を継続・拡大するためにビジネス化する社会起業家育成を行っております。社会起業家と起業家の違いという点からお話すると、事業を始める時の発想に違いがありますね。起業家は利益を出す事を目的に事業を発想する事が多く、結果として社会課題解決に繋がっていきませんが、社会起業家はまず社会課題を解決したいという所から事業を発想していきま。最終的に行きつく所は同じなのですが、事業を始める時の考え方に違いがありますね。多くの社会起業家の方々から相談を受け

「これは社会起業家に限りませんが「覚悟」と「信念」を持つて事業を行ってくださいとお伝えしています。失敗と成功を繰り返すことでノウハウが蓄積され、良い事業が生まれますが、失敗を乗り越えるためには覚悟と信念が欠かせません。伴走支援を行う中でも、考え方や手法をお伝えしますが、どのように実行していくかの選択は相談者の方に委ねています。アドバイスは無数にある手法の1つであり、他の方法でも成功になります。大事なのは、やりきえる覚悟と信念です。」
また、目標は高く設定するべきだと考えます。目標を低くしてしまうと、その目標を

達成するためのやり方しか考えられません。周囲からの声に惑わされず、目標を高く設定してください。達成できなかったとしても、高い目標を達成しようとするプロセスの中でノウハウが蓄積されます。」
社会起業を目指す方々にエールをお願いします。
社会起業家の方たちには勇気をもって稼ぐということを意識して事業を行っていただきたいです。冒頭お話ししたように事業を発想する時に利益を目的としないので、地域課題解決型の事業はどうしても継続しないことがほとんどです。素晴らしい事業でも継続しなければそれまでになつてしまうので、利益も出していかなければいけない。利益を出せるということ。私を価値を提供できているという事にもなりますからね。事業を継続できるように社会起業家を育成していくことが私の役割だと考えておりますので、社会起業を考えている方はぜひご相談ください。

ふくいソフトウェアコンペティション2023 を開催しました！



今年も(公財)ふくい産業支援センターでは、ソフトウェア技術を担う人材の発掘、育成、確保を目的として、プログラム等の作品を公募し、その優秀性と先進性を競う「ふくいソフトウェアコンペティション2023」を実施しました。今年度は27作品の応募があり、その中からふくいソフトウェア大賞をはじめとした受賞作品を決定しました。

ふくいソフトウェア大賞

作品名：チャリレコ
 学校名：福井工業高等専門学校
 氏名：藤野間 奏人、山腰 大輝、中西 奏一郎



優秀賞

作品名：囲みマス-プログラミング陣地取りゲーム-
 プログラミングで参加できる陣地取りゲームのシステム
 学校名：福井大学
 氏名：鈴木 智也

優秀賞

作品名：ATOMIX (アトミックS)
 原子同士のコネクションを元にした反射パズルゲーム
 学校名：福井情報ITクリエイター専門学校
 氏名：中嶋 陸翔、坪川 颯斗、後藤 海登

福井県IT産業団体連合会 会長賞

作品名：GIGA School Shop ~購買委員と購買担当の先生の働き方改革~
 学校の購買をネット通販のように運営できるシステム
 学校名：勝山南部中学校 氏名：森井 健太

協賛企業賞

- 株式会社アイジュピタ賞
 作品名：金記キッズ
 お金の貯め方や金融リテラシーを学べるアプリ
 学校名：福井情報ITクリエイター専門学校
 氏名：清水 翔太、森岡 啓音、加藤 昂也
- 株式会社ignote賞
 作品名：エモブレ
 音楽の感情を判定し感情ごとのプレイリストを自動生成するシステム
 学校名：福井大学大学院
 氏名：松原 佳寛
- 共同コンピュータ株式会社賞
 作品名：Let's Dance Here (レッツダンスヒア)
 ダンスの練習をお手伝いするアプリ
 学校名：福井情報ITクリエイター専門学校
 氏名：北川 貴嶺、川上 悠貴、池端 駿太

- 株式会社ネスティ賞
 作品名：GIGA School Shop
 ~購買委員と購買担当の先生の働き方改革~
 学校名：勝山南部中学校
 氏名：森井 健太
- 福井システムズ株式会社賞
 作品名：おふろのオトモ
 お風呂の時間を効率的に、楽しく、安全なものにするプログラム
 学校名：福井情報ITクリエイター専門学校
 氏名：白崎 一樹、竹越 友哉、中川 久
- 北電情報システムサービス株式会社賞
 作品名：ECSS(English Comprehension Standardization System)
 英語学習の理解度を評価するシステム
 学校名：福井大学
 氏名：石田 柊介
- 三谷コンピュータ株式会社賞
 作品名：オンラインお母さん
 子どもたちの目標達成を支援するアプリ
 学校名：福井情報ITクリエイター専門学校
 氏名：畑中 拓海、若泉 来未、安野 仁義

奨励賞

作品名：Randestaurant
 近くのレストランをランダムで一つ表示してくれるアプリ
 学校名：福井大学大学院
 氏名：石 智光

奨励賞

作品名：Tool Keeper (ツールキーパー)
 物の管理を手助けするアプリ
 学校名：福井情報ITクリエイター専門学校
 氏名：山岸 海翔、山崎 裕聖、河村 翔輝

お問い合わせ先

(公財)ふくい産業支援センター 新産業支援部

CASE 3・4

築140年の古民家を 農家民宿に



芳沢 郁哉 氏



同社HPはコチラ!

DATA
晴れのち、もっと晴れ
 所在地：吉田郡永平寺町吉峰14-5-1
 代表者：芳沢 郁哉 氏
 事業内容：農家民宿の運営

昨年7月、永平寺町にオープンした農家民宿「晴れのち、もっと晴れ」運営を行うのは2021年に帰郷した芳沢郁哉氏です。日本一周の旅を経て、開業を決意。築140年の祖母の古民家を改装し、民宿に蘇らせました。「自分たちの手で作り上げるプロセスを大切にしたい」と話す芳沢氏は、古民家改装の様子をSNSで発信。日本一周の旅でつながった人々はもちろん、SNSを見て協力したいと訪れる方も多かったそう。芳沢氏は「様々な方とのつ

ながりのおかげで民宿を開業できなかった。開業に携わってくれた仲間とのつながりはこれからも大切にしていきたいですね」と話します。もう一つ芳沢氏が大切にしているのが「まだ使えるものはすべて使う」ということ。民宿内の棚や机も元々古民家にあつたものや知人から譲り受けたものです。芳沢氏は「古民家も朽ちてしまったり、壊してしまったりと復元するのは難しい。まだ使えるものは活かしていきたくて、歴史や伝統を残していきたいですね。あらゆるものがあふれる現代だからこそ、人とのつながりや歴史、伝統といった価値を伝えていきたい」と意気込みます。



文殊山を みんなの遊び場に



海道 亮氏



同社HPはコチラ!

DATA
株式会社KAIDO
 所在地：福井市大村町21-8-1
 代表者：海道 亮氏
 事業内容：建築板金工事、造園工事、リノベーション事業など

昨年4月、文殊山にキャンプ場「知恵の神様のいる野遊び場」をオープンした株式会社KAIDO。同社代表取締役の海道亮氏が発起人の文殊山アドベンチャープロジェクトの一環で、海道氏とプロジェクトメンバーが運営を行っています。「自身がアウトドア好きだったこともあり、文殊山全体を遊び場にしたいという想いから始めました」と海道氏。「色々なものが溢れる現代で、不便を楽しむことができるのもアウトドアの面白さ」と話します。現在のキャンプ

場は玄人向けで、本格的なキャンプを楽しむ方が訪れているそうです。プロジェクトはまだ始まったばかりで、これから長い期間をかけて文殊山を開拓していく計画とのこと。プロジェクトメンバーも随時募集しており「みんなで作るキャンプ場」を目指しています。最後に海道氏は「リアルな居場所を見つけたいからこそ、人が集まる場所にしていきたい。仲間を見つければ、つながりを生み出す、文殊山をそんな居場所にするようにプロジェクトを進められれば」と力を込めます。



株式会社パワーズ

所在地：越前市小野谷町(問屋町) 4-3-7

代表者：塚本 裕之氏

事業内容：婦人用ブルオーバー、チュニック、カーディガン、ポロシャツ、レギンス、スリムパンツ等企画製造販売

URL <https://www.powers-fukui.co.jp/>

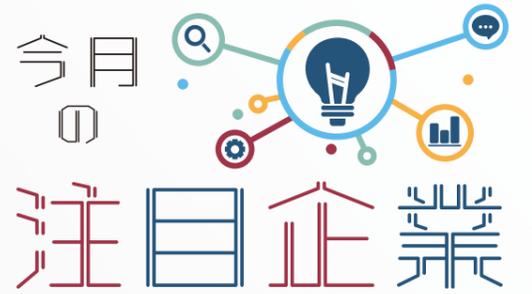
電話番号：0778-23-6338



同社HPはコチラ!



代表取締役 塚本 裕之氏



福井県産の米ぬかを活用した 機能性表示食品を開発・販売

株式会社パワーズ

通販会社向けアパレルの製造・卸業を手掛ける株式会社パワーズ。2021年、新規事業として福井県産コシヒカリの米ぬかを活用した『食べる米ぬか』を開発・販売し、2023年に機能性表示食品の承認を得た『米ぬかde快調 稲穂の恵®プレミアム』を完成させました。商品開発の経緯と今後の展望を、代表取締役の塚本裕之氏に伺いました。

『食べる米ぬか』を開発・販売

全国の通販向けアパレルの企画・開発から卸売まで手掛ける同社。福井を代表する水仙などの花で染めた肌やさしい衣服をはじめ、メイド・イン・福井のものづくりを行っています。

「花で染めた衣服は、廃棄される静岡の茶の実オイルを練

り込み、カテキンの抗菌性を備えています。この原料にこれを足すとこんな効果が得られる」という発想は、アパレルも食品も同じです」と、塚本氏は『稲穂の恵®プレミアム』との共通点を語ります。

そもそも米ぬかを活用した食品開発のきっかけは、「繊維に米油を練り込めないか」という米油製造会社からの提案がきっかけでした。「そこ

で米ぬかには食物繊維やビタミン・ミネラルが豊富で栄養価があることを知りました」と塚本氏。その後、全国各地の米ぬかを取り寄せ社員と試食。福井県の米ぬかが一番美味いという結果を受け、繊維ではなく食品として県産米ぬかの活用を考察します。

まず、約7日間と短い米ぬかの賞味期限をのばすため、県外の専門会社の加熱水蒸気

殺菌で米ぬかをパウダー状にし、添加物を使わず1年以上の賞味期限を実現。福井市内の米農家と契約して米ぬかを仕入れ、『食べる米ぬか』の製品化と事業化に取り組みました。

**機能性表示食品認可取得
美と健康に関わる会社へ**

最初に開発した『食べる米

ぬか』は、米ぬかに乳酸菌を入れたパウチタイプの商品でした。しかし、試食の段階で「母から、面倒くさいし美味



福井県産コシヒカリの米ぬかを使用

しくないと言われた」と塚本氏。その後、食品の品質管理に長けた顧問を付け、手軽に持ち運べるスティックタイプの『食べる米ぬか』を開発・販売しました。

ところが、販路として想定していた通販会社に商品提案すると、「機能性表示食品でない」と売れない」とあえなく却下。塚本氏は奮起し、新たに米ぬかを使った機能性表示食品『稲穂の恵®プレミアム』の完成を目指します。ふくい産業支援センターの新事業チャレンジステップアップ事業助成金を活用し、機能性表示食品に必要な米ぬかの効果・効能を裏付ける試験・分析を専門機関に依頼し、認可申請をしました。

食べる米ぬかパウダー『米ぬかde快調 稲穂の恵®プレミアム』

申請から約9カ月後、『稲穂の恵®プレミアム』は機能性表示食品の承認を得

ます。「米ぬか、食物繊維、乳酸菌が便通改善やお腹の調子を整え、血糖値の上昇を緩やかにする効能があります。体の外から健康をサポートする衣服に対し、こちらは体の中からサポートするもの。この商品を契機に、美と健康に関わる会社として自社商品を直接お客さまに販売し、リピーターを増やしたい」と展望します。

ラジオショッピングから 福井土産まで販路を開拓

食べる米ぬかパウダー『稲穂の恵®プレミアム』は、殺菌した県産コシヒカリの米ぬかに、チコリ由来の水溶性植物繊維とヒト由来のナノ型乳酸菌を約5000億個配合。「米ぬかには不溶性の食物繊維も含まれ、スティック1本で5・8gの食物繊維が摂取でき日本人に不足する量を補います」と胸を張る塚本氏。味にもこだわり「そのまま

もちろん、ヨーグルトや味噌汁に入れても美味しいですよ」とほほ笑みます。

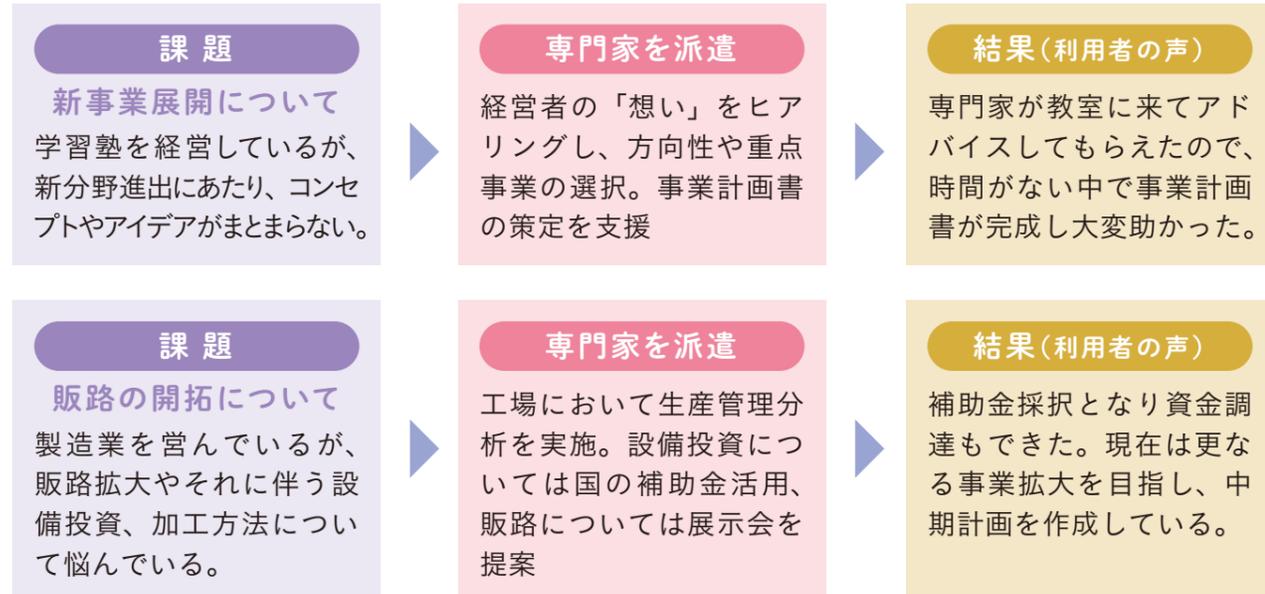
現在、自社HPで販売を行い、機能を説明できるラジオショッピングでの取り扱いも予定しています。さらに、3月の北陸新幹線延伸開業と越前市にゆかりのある紫式部が主役の大河ドラマ放映を見据え、パッケージに平安時代のキャラクターを用いた商品の販売を計画。「機能性表示食品はパッケージも認可対象なので、こちらは中身は同じで機能性表示食品の表示を外したのとなります。福井県の特産品として、全国にファンを広げていければ」と販路開拓を進めます。

「当初は60〜80代の母親世代がターゲットでしたが、ネットの顧客は意外と男性が多い。世の中で便秘に悩む人のお助けと同時に、北陸新幹線で活気づく福井を発信できるように努めていきたい」と力強く語りました。

令和5年度 「専門家派遣事業」のお知らせ

ふくい産業支援センターでは、「支援センターの総合相談窓口を利用されている」もしくは「支援センターの実施する事業を活用されている」県内事業者等を対象に、当支援センターに登録されている民間の専門家を派遣し、課題解決につなげる取組みを行っています。ぜひご利用ください。

《 専門家派遣の使い方(実例) 》



《 専門家派遣のメリット 》

1. 専門家への 謝金負担を軽減

派遣は5回まで
3回までは【無料】、4回目以降は
半額を負担いただきます。
※謝金は1回あたり2万円上限
(1時間当たり1万円、税別・旅費込)

2. 課題解決 スピードアップ

一定期間内に集中して専門家
の助言を得られます。
※派遣する専門家は課題内容を
ヒアリングの上、当センターが
選定、提案します。

3. よろず支援拠点^(※) とのサポート連携

当センター職員が専門家派遣
時に同席するほか、よろず支
援拠点のコーディネーターが
必要に応じてフォローアップを
行います。

※よろず支援拠点：多様な分野に
精通した専門家が在籍する国が
設置した無料の経営相談所です。

専門家派遣を受けてみたい
県内中小企業者の方はこちら



経営に関する悩みごと、お気軽にご相談ください！

(公財)ふくい産業支援センター 総合相談窓口のご案内

事前予約制

相談無料

TEL:0776-67-7421 FAX:0776-67-7429 E-mail: soudan@fisc.jp



FISC 総合相談

検索

※右記のQRコードから相談窓口のコーディネーターの当番予定日、予約状況が確認
できるほか、相談のご予約も可能です。まずは、お気軽にご相談ください。

よろず支援拠点 経営Q&A

創業支援と
事業承継とM&A

疑問の概要



親族にも社内にも事業承継して
くれる人材がいない。事業が継続
されないと多くの関係者にも迷惑が掛かるので
どうしたら良いか相談したい。

「福井県よろず支援拠点」は売上拡大といった経営のご相談を中心
に、創業のご相談から事業承継、さらにM&Aによる成長戦略等、
多様なご相談をお受けする機会があります。

今回は違うようで似ている創業支援と事業承継・M&Aの相談対
応をご紹介させていただき、捉え方によって様々な応用できる支援
策についてご説明させていただきます。

◎創業支援での相談と対応

創業支援の場合、事前にどういった事業を始めるかは決まってい
るケースが多く、ご相談の内容としては資金繰りや資金調達のご相
談から始まり、融資や補助金獲得を前提に「事業計画書」の作成に
ついてのご相談となる場合が多いようです。

「事業計画書」は、主に大きく2つで構成されており事業コンセプトや
ビジネスモデルのパートと売上・資産・負債といった財務面のパートに分
かれており、両者の整合性が取れているかについての確認や助言等
を行っています。

◎事業承継・M&Aでの相談と対応

事業承継の場合は、後継者の存在の有無で相談の流れが大きく
変わってきます。後継者が居る場合は、承継までの手続き面や
承継後の事業継続の内容が中心となり、通常の経営相談の領域と
言えます。

一方で、後継者が未定や不在となる場合は「後継者探し」または「事
業継続の有無」の相談から始まり、現状の確認と将来の展望といっ
た内容を押さえて、今後の対応を考えるための「事業承継計画」の
作成・検討が中心となってきます。

近年では、M&A手法が「事業引継ぎ」として事業承継の一つの
手段として用いられるようになったため、規模の大小にかかわらず第
三者へ事業を譲渡するといった事業承継相談対応が検討要件に入っ
てきました。

◎創業支援と事業承継・M&Aの関連=後継者人材バンク

「福井県よろず支援拠点」にご相談のある「創業」と「事業承継」は、
全く異なるアプローチになると思われる方も多いと思いますが、地域
に不可欠な事業の存続と意欲ある起業家による創業を同時に実現す
るための支援手法として「福井県事業承継・引継ぎ支援センター」に
「後継者人材バンク」の制度があります。

創業希望者には、現役の事業者の取引先や従業員・設備・ノウハウ
といった経営資源をそのまま活用し、創業リスク・コストを抑えること
ができ、後継者不在の事業者には事業継続が行われることでのステーク
ホルダー(関係者)への責任が果たせるといったメリットがあります。

◎後継者人材バンクご利用のポイント

1. 後継者不在の事業者

後継者不在で譲り渡しを希望する事業者の方は次の点にご留意
ください。

①第三者譲渡であるため、親族承継とは異なり、様々な条件面での
取り決めを行う必要があるため、希望条件に合致できない等のケ
ースがあります。

②「創業希望者」に「事業引継ぎ」の思いを理解してもらえるまでに
時間がかかる場合があります。

③「後継者人材バンク」は、後継者不在の事業主の経営者候補として、
創業希望者をマッチングするもので、従業員を斡旋するものではな
いこと等にご留意いただく必要があります。

2. 事業承継を通じた創業希望者の方

創業を希望する方は以下の点にご留意ください。

①既存の店舗を引き継ぐような場合、立地や規模が制限されるため
ゼロからの起業と比較すると相対的に経営の自由度は低くなります。

②「後継者人材バンク」の登録のためには商工会議所・商工会等の
創業支援機関による起業塾・創業セミナー等を受講していること
が必要です。

◎創業支援×事業承継におけるよろず支援拠点の活用方法

今回ご紹介した「後継者人材バンク」に限らず、創業希望者の方
には「創業計画」が、後継者不在の事業者の方には早めの「事業
承継計画」が大切となっています。

「福井県よろず支援拠点」と「福井県事業承継・引継ぎ支援セン
ター」は共に中小企業庁からの委託を受けて相互に連携し、創業
者や事業者の支援を行っている機関です。

「後継者人材バンク」を利用するためには「福井県事業承継・引継ぎ
支援センター」へ登録する必要があり、「福井県よろず支援拠点」では、
創業のご相談から事業承継、さらにM&Aによる成長戦略、事業承継
後の経営相談等、幅広くご相談をお受けする役割を担っています。

「福井県よろず支援拠点」では、「福井県事業承継・引継ぎ支援セン
ター」と連携して創業希望者・後継者不在事業者のお悩みに伴
走しながら支援を行ってまいりますので、「創業計画」の作成・
「事業承継計画」の作成に限らずお気軽にご相談ください。

お役立ちツール紹介

福井県
事業承継・引継ぎ
支援センター



後継者
人材バンク



福井県よろず支援拠点では、専門家が各種経営相談に
無料で応えています。お気軽にお問い合わせください。

お申し込み・お問い合わせ先



福井県よろず支援拠点

TEL:0776-67-7402 E-mail: yorozu@fisc.jp



Start a New Project

印鑑を「紙に押す」から「背中を押す」ものに 老舗印章店五代目の挑戦

県内の成長意欲の高いベンチャー企業を紹介するシリーズ。今回は、「家業」いう伝統の技と心を守りつつも、新たな挑戦をして革新を起し続ける、株式会社小林大伸堂（鯖江市）の事例をご紹介します。

「家業を継ぎたい」と25歳で印鑑彫刻士の道へ

株式会社小林大伸堂は創業130年、5代にわたる歴史を持つ老舗印章店です。同社は印鑑のインターネット通販に先駆けて着手し、実店舗ではパワーストーン宝石印鑑を取り扱い、松屋銀座など都心の百貨店で定期的に特別受注会を催すなど、伝統の技術と心を守りつつも、新たな取組みに挑戦し続けています。

同社の5代目で常務取締役を務める稔明氏は、現在36歳。大学卒業後、大阪市の老舗宝飾店に就職し、2012年に帰郷。25歳で小林大伸堂に入社しました。

4代目の父・照明氏も学んだ印鑑彫刻の師匠の元で一年ほど修行し、経験と技を積んだ稔明氏は、国家資格の印章彫刻技能士試験に合格。宝石の知識をもつ印鑑彫刻士として、開運印鑑から宝石印鑑まで幅広い要望に応えるまでに成長していきま

「脱ハンコ」宣言のピンチをチャンスに

転機はコロナ禍の政府による「脱ハンコ」宣言でした。実店舗とネットショップを連携させた経営で業績は好調ながらも、稔明氏は危機感を抱きはじめます。行政手続きにおける認印全廃など、政府の「脱ハンコ」推進が加速していく中で、「既存ビジネスが無くなってしまわないか…」と一時は「廃業」という言葉も脳裏をよぎったそうです。

家業を守っていくためにも、この状況をどうにか打開したいと考えた稔明氏は、印鑑を従来の「紙に押す」ものから「背中を押す」ものに変えるという発想に大きく転換。「脱ハンコ」をピンチではなくチャンスと捉え、自社の強みを活かした新事業展開に挑戦しました。そこで生まれた商品が、「しるし結び」と「こまもり箱」です。

「しるし結び」と「こまもり箱」

「しるし結び」とは、ふたりの名前を1つに結んだしるしをペアグラスなどに刻印することで、結ばれ続ける2人をあと押しするメモリアルギフトです。単なる名入れではなく、老舗印章店として「開運印鑑」を作り続けてきたノウハウを活かし、運気を込めた印影をオーダーメイドで作成するのが特徴です。



しるし結び緑グラス(ペア)

株式会社小林大伸堂



常務取締役
小林 稔明氏

鯖江市水落町2-28-29 HP <https://kobayashidaishindo.jp/>
TEL 0778-52-8811 E-mail toiawase@nameandwish.jp

「こまもり箱」とは、我が子の命名に込めた想いを桐箱に印字する出産記念ギフトです。印鑑をはじめ大切なものを木箱の中に保管して将来の我が子に贈ることで、親子の絆を結びます。「開運印鑑」の販売で培ったお客様の想いを聴く力を生かし、命名に込めた想いを文章にまとめるオリジナルサービスが特徴です。



こまもり箱

2人のしるし結びを刻んだペアグラスはひと月に60ペア、こまもり箱はひと月に30箱を売り上げる人気商品に成長。ピンチをチャンスに変えた老舗印章店の新たな挑戦は地元メディアや大手雑誌に多数取り上げられました。

世界で活躍する後継ぎベンチャーへ

新事業展開に手ごたえを感じて全国展開を視野に入れた稔明氏は、さらなる成長を目指し、福井ベンチャーピッチ（2023年11月）に登壇。2か月間の事前メンタリングを経て、投資のプロの前に今後のビジョンを発表しました。伝統ある印鑑を、「紙に押す」から「背中を押す」ものに再定義するビジネスアイデアは話題を呼びました。「これまでは自分の好きなものを作っているという感覚だったが、ピッチ登壇をきっかけに、世の中で求められているものを作っているんだということを実感できた。これからはビジネスを通じて、世の中の課題を解決したり、文化を作っていきたい」と意気込みます。

今後はさらにビジネスに磨きをかけ、世界を舞台に活躍する後継ぎベンチャーとして、ますます飛躍していかなるのではないのでしょうか。



執筆者：新産業支援部 ベンチャー・EビジネスG 岡田留理

デジタル変革への 挑戦！

県内企業のデジタル活用事例紹介

県内企業のデジタル活用事例をご紹介します本コーナー。
今回は、丸幸せんい株式会社（越前市）の事例をご紹介します。

進捗管理システムを導入し、生産状況の見える化と省力化を実現

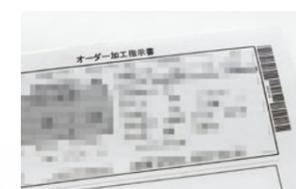
カーテンをはじめとするインテリア製品を企画製造する丸幸せんい株式会社。生産拠点の春江工場（坂井市）では、形状記憶機能を持つドレープカーテンや、断熱機能を持つレースカーテンなどを縫製加工しています。暮らしを豊かにする製品を消費者に届けるために、生産数や進捗の管理にデジタルを導入し、品質改善に取り組んでいます。

生産状況の見える化し、 数量把握を自動化したい

同社では、製品ごとに顧客名・受注日・出荷予定日・生地品名・仕上がり寸法・数量などを記載した縫製（生産）指図書を作成し、生産管理を行っています。

以前は、これらの情報をExcelシートで作成した紙の指図書のみだったため、工程がどこまで進んでいるかを確認するには現場で目視するしかなく、顧客からの問い合わせの際などは、現在どの工程にあるのかの確認に時間を取られていました。また、生産数のチェックも手書きの指示書をカウントする必要があり、時間を要するものでした。

そこで、製品ごとの進捗状況や生産数などの情報をサーバーに蓄積し、全社で共有する進捗管理システムを導入。



各情報の基になるデータは、指図書に印字したバーコードを、縫製機械に接続したバーコードリーダーで読み取って取得しています。

システムの仕組みや操作はできるだけシンプルに

進捗管理システムの稼働に当たっては、「社員に負担をかけず、継続的に使用できることを最優先した」と佐々木社長。入力項目が多く、煩雑な業務が増えてしまっは本末転倒との判断からです。

システム稼働により社員に新たに課せられたのは、作業終了後、縫製機械に装着されたバーコードリーダーに指図書のバーコードをかざすことのみです。素早く読み取れるように、バーコードリーダーは反応性に優れた機種を選択しました。また、秒未満の単位で作業をスムーズにするために読み取りやすい角度・高さに設置し、かざすだけで読取りができるよう工夫しました。

読み取られたデータは、各バーコードリーダーから工場内の端末に接続された充電ポットを通して、常時サーバーに送られる仕組みです。この新しい作業環境は導入してから1～2年で定着しています。

生産状況を日々確認 DXのポイントは導入目的の追求

バーコードリーダーは要所となる複数の縫製機械に設置され、製品ごとの進捗状況は、管理部門と工場の端末で確認できます。各班のリーダーは、日々の生産数を集計した一覧を確認し、前日の生産数と当日の出荷数を朝礼で各社員に周知しています。

これにより全員が、製品ごとの進捗や納期を意識しながら作業するようになり、現在どの工程にあるかわかることで、工程の途中にある仕掛品を探す時間が70%以上削減できました。

また、生産数記入などの時間も同じく70%以上減少し、それまでの手間が省かれました。「工程の見える化と省力化」という目的をシンプルに追求したことが功を奏しています。

会社概要 丸幸せんい株式会社

【インテリアカーテンの製造販売】

代表者名：佐々木 直哉 氏 所在地：越前市小野谷町4-1-13
HP <http://www.maruko-tex.co.jp/>

お問い合わせ先

(公財)ふくい産業支援センター DX推進チーム
TEL:0776-67-7416 FAX:0776-67-7439 E-mail:dx-g@fisc.jp

特設サイトで公開中です

DXラボでは、福井県内企業40社のデジタル活用事例を特設サイトで公開中です。IT関連企業の情報も掲載していますので、情報収集にご活用ください。

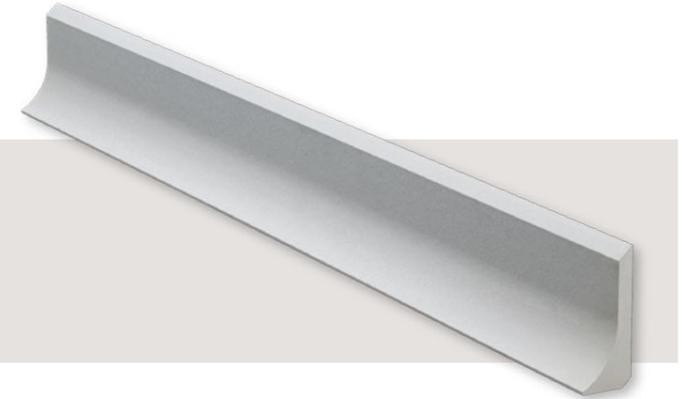


ふくいDXオーファンボ
公式サイト



2023 グッドデザイン賞

食品工場中木
ソリッドライン
フクビ化学工業株式会社



近年、各事業者の製品に対する安全性向上と品質管理の意識は高まりを見せ、様々な規格に基づいた工場の設計が行われるようになりました。特に国内の食品事業者に対しては、衛生上の危害発生の防止と適正な品質確保のために考案された製造過程を管理するシステム「HACCP」の導入が2021年より義務化されています。また、国際的な食品安全システム規格「FSSC22000 認証」や医薬品の製造と品質管理に関する国際基準「GMP」では、工場の衛生と清掃性向上のために壁や床の接合部にRを付けることを推奨しています。そのため、食品工場では現場でのモルタル施工や、金属もしくは樹脂製のR中木を取り付けることで対応していました。しかし、このような既存の方法は中空形状であったり、温度収縮によるクラックが発生することで、隙間ができ、虫や菌の温床になったり、埃が堆積するなど衛生面に欠けていました。

ソリッドラインは、「衛生的でシームレスな納まりを実現する」デザインです。塗り床材と密着性の高い窯業系素材セミックスを採用したことで、床と中木を継ぎ目なく塗り上げることが可能になり、床面のコーキングを無くしつつ一体化した納まりを作り出せるようになりました。加えて、熱収縮性が低いため段差や隙間が生まれにくい、高温洗浄に対応できる等、素材の特長を活かした製品に仕上がりました。また、床からの立ち上がり部には大きなR(半径50mm)を設けているため、埃が溜まりにくく、清掃性を向上させます。このように、ソリッドラインは工場的美観向上にも繋がる衛生管理に最適なR中木製品です。

【審査委員の評価】

担当審査委員 | 山崎 宣由 小林 マナ 柳原 照弘 吉田 貴子

従来の食品工場の壁と床の取り合いは左官職人が手作業でするか成形品の中木を使用するかといったように選択肢が限られている。それぞれに一長一短あり、様々な問題を抱えていたが本製品は工期も収まりの問題も解消できるハイブリッド製品である。製品自体の強度も高いため、過酷な環境にも安心して使用する事ができる。塗装も可能で様々なインテリアのシーンに溶け込む事ができる点も評価した。



浙江省 易煉紅書記、王浩省長表敬訪問
(令和5年(2023)年10月31日)



在上海日本国総領事館 赤松秀一総領事・大使との意見交換
(令和5年(2023)年10月29日)

浙江省との交流と 日中間渡航に関する見通し

福井県上海事務所 副所長 土居 祐也

(2023年12月28日)

**福井県と浙江省との
交流について**

福井県と中国浙江省との友好提携30周年(1993年10月協定締結)を記念し、杉本知事をはじめとする代表団が浙江省を訪問しました。福井県と浙江省はこれまで、中学生の交流や技術研修員、国際交流員など1,000人以上の往来実績があり、経済分野でも中国が福井県の最大の貿易相手国となっております。

30周年を記念したレセプションでは、福井県より北陸新幹線の敦賀への延伸を含めた観光面の情報発信・推進の連携強化を確認し、浙江省からは相互交流の継続・強化を進めていくとともに、経済分野においては、電子商取引や、スマートシティーなどでの交流を推進していきたい等の意見交換が実施されました。

福井県浙江省友好交流訪問団の派遣は、両県省の友好交流の促進に非常に重要な役割であり、ビジネスや観光、青少年の交流など浙江省との更なる友好交流拡大が

**日中間渡航に関する
見通し**

期待されます。
北陸地方では2023年4月1日より小松空港と台北(桃園空港)を結ぶ国際路線(エバー航空)が再開し、延期されていた小松空港と中国の上海を結ぶ定期便(中国東方航空)が12月17日より運航再開となりました。小松空港における上海便は新型コロナウイルスの影響で2020年3月から運休が続いており、約3年9か月ぶりの再開となります。また、12月28日から韓国(ソウル)便も同じく約3年9か月ぶりに再開となり、小松空港の国際定期便は3路線が再開となります。

これを機に北陸を玄関口とした国際的なビジネス面での往来が活発化することに加え、2024年3月16日に予定されている「北陸新幹線」の「金沢-敦賀」の開業が北陸地方における観光面にとって大きくプラスに働くことが期待されます。
2022年12月以降、中国

国内における新型コロナウイルス関連の行動規制は撤廃され、海外との渡航規制も大幅に緩和されています。
中国の大手オンライン旅行会社である「携程(Ctrip)」の発表では、2024年元旦における海外旅行総数は、前年(2023)比で5倍と大きく伸長する形となっております。なお上記発表では人気旅行地の中に「韓国」、「東南アジア」などに加え「日本」も入る結果となり、依然として中国における日本への観光需要が高いことが示されました。

一方日本から中国への渡航に際しては、一部地域・特定の条件下を除き、目的に応じた査証(ビザ)の取得が必要な状況が続いており、日本政府はビザ免除措置の早期再開を求めています。
福井県上海事務所は、本年も引き続き渡航関連の動向に注視するとともに、ビジネス、観光両面におけるPR活動や支援活動に一層注力して参りますので、ご相談の際はお気軽にご連絡ください。



福井県上海事務所 検索

中小企業産業大学校 公開講座のご案内

中小企業のための「脱炭素経営」に取り組むヒント 【オンライン同時開催】

脱炭素に関する世界の潮流に伴い、中小企業でも自社のCO₂排出量の見える化・削減が求められるはじめており、今後、必ず削減を要請される時期が到来します。この研修では、CO₂排出の削減方法や取り組むメリットなど取組みの全体像を学びます。

日時 令和6年2月15日(木) (1日間/3時間)
対象 脱炭素や省エネに取り組みたい中小企業者
受講料 無料
講師 黒柳要次 [株]パデセア 代表取締役
定員 20名

詳細はHPをご覧ください。



お問い合わせ先

(公財)ふくい産業支援センター 人材育成部
〒918-8135 福井県福井市下六条町16-15
(福井県中小企業産業大学校内) TEL 0776-41-3775

脱炭素技術展 出展者募集!

(公財)ふくい産業支援センターでは「脱炭素技術展～持続可能な社会の実現に向けた省エネ・リサイクル技術～」と題し、県内企業の脱炭素化に向けた新たな技術開発や取組み(省エネ・リサイクル)等について、県民の方々や県内外の企業へ広くPRするため、技術展を開催いたします。

ぜひとも御社の製品や技術をご出展ください。

日時 令和6年4月18日(木)~20日(土)
9:00~17:00
会場 福井県工業技術センター 研修棟2階
講堂前ロビー (福井県工業技術センターの
一般公開期間に合わせて開催します)

申込締切 令和6年2月9日(金)

申込方法等の詳細はHPをご覧ください。



お問い合わせ先

(公財)ふくい産業支援センター
オープンイノベーション推進部 TEL 0776-55-0664

「テーマ別個別相談会」 (よろずゼミ)を実施しています

福井県よろず支援拠点では「テーマ別個別相談会(よろずゼミ)」を実施しております。自社で抱える経営課題、セミナーで聞けなかったことや各相談者様に適した方法について、様々な専門家に個別にご相談できます。現在お悩みのテーマやご興味のあるテーマがございましたら、お気軽にご相談ください。

日時 随時開催(完全予約制)
※開催日時はメールもしくはお電話にて調整
①9:30~10:30 ②11:00~12:00
③13:00~14:00 ④14:30~15:30

開催方法 ふくい産業支援センターでの開催、
またはオンライン

定員 各回1事業者
詳細はHPをご覧ください。



お問い合わせ先

福井県よろず支援拠点 TEL 0776-67-7402

貸オフィスのご案内 スタートアップエリアの入居者を 募集しています

福井県産業情報センタービルの貸オフィスの入居者(スタートアップエリア)を募集しています。IT分野で創業をお考えの方、ITを活用して新しい事業を立ち上げたい方向けのスペースです。ぜひご検討ください。

利用期間 6か月間。ただし、認められれば1回のみ更新ができます。(最長で1年間利用可能です)

施設概要 シェアオフィス型、パーティションタイプ
24時間、365日利用可能 WiFi環境完備

オフィスの詳細はホームページをご覧ください。見学も受け付けておりますので、お気軽にお問い合わせください。



お問い合わせ先

(公財)ふくい産業支援センター 新産業支援部
TEL 0776-67-7411

F-ACT読者アンケートの 記入についてのお願い

当情報誌の内容につきまして、アンケートを実施いたします。皆様が日頃関心をお持ちの事柄やご要望をお伺いするものです。当アンケートの趣旨をご理解いただき、下記の方法にてアンケートにご回答いただきますようお願い申し上げます。※回答時間は2~3分です。

1.ご回答方法

(1)同封のアンケート用紙によるご回答

→郵送または、FAXでご返送ください(同封の返信用封筒をご利用ください) FAX番号 0776-67-7429 まで

(2)Webでのご回答

右のQRコードからご回答をお願いします。



2.ご回答期限 令和6年2月26日(月)

※集計の都合上、期限内のご回答にご協力をお願いいたします。

お問い合わせ先

(公財)ふくい産業支援センター One to Oneサービス推進部
TEL 0776-67-7425 担当:上野、山田

サテライト講座の受講者を 募集しています!

サテライト講座は、東京の教室で行われている研修を、ふくい産業支援センターの特設ブースで受講できる新しい研修スタイルです。これまで首都圏でしか受講できなかった専門的な研修を、公的機関ならではのリーズナブルな料金で実施します。ぜひ、社員教育やリスクリングにご活用ください!

※お申込みは「福井県内企業」または「福井県内の個人」に限定させていただきます。

《コンテンツ提供》

(株)富士通ラーニングメディア
(FLM)



お問い合わせ先

(公財)ふくい産業支援センター IT研修担当
TEL 0776-67-7411 E-mail pckouza@fisc.jp

税務署からのお知らせ

確定申告はスマホ×マイナンバーカードでe-Taxが便利

e-Taxの5つのメリット

- 税務署への持参不要
- 印刷・郵送料不要
- 添付書類提出不要 ※一部の書類は除く
- 確定申告期間24H利用可能 ※メンテナンス時間除く
- 早期還付(3週間程度で還付)



キャッシュレス納付が便利です!

国税庁では、各種の「キャッシュレス納付」手続きを用意していますので、是非ご利用ください。



確定申告書等▲作成コーナー



確定申告書の作成方法は動画でチェック!

確定申告書等作成コーナーを利用した入力方法などの動画をご案内しています。



確定申告 動画 🔍 検索

チャットボットに相談!

確定申告に関する質問はAIチャットボットの「ふたば」に、ご相談ください。



税務職員ふたば 🔍 検索

令和5年分の確定申告

申告 納税	所得税および復興特別所得税・贈与税
	令和6年3月15日(金)まで
申告 納税	消費税および地方消費税(個人事業者)
	令和6年4月1日(月)まで

税務署の申告会場への入場には、「入場整理券」が必要です。

- ▶各会場で当日配付
- ▶LINEから事前発行 →

(国税庁LINE公式アカウント)
詳しくは国税庁ホームページをご確認ください。



情報収集と情報発信、企業・イベントPR等に！
「ふくいナビ」をご活用ください

(公財)ふくい産業支援センターでは、県内企業の皆さまの経営に役立つ情報を集めたポータルサイト「ふくいナビ」を運営しております。「ふくいナビ」では、下記のようなサービスを提供しておりますので、ぜひご活用ください。

イベント情報や公募情報などをまとめて見られる！

県内中小企業支援機関による講演会・セミナー等のイベント情報や、国・県等による助成金等の公募情報など、経営に役立つ情報が盛りだくさんです。

メルマガ、メーリングリストを無料で提供！

企業と顧客、あるいは企業同士でのコミュニケーション・ツールとして利用できる、メールマガジンやメーリングリスト等の機能を、無料で提供しています。

ビジネス情報を自ら発信！

県内中小企業の皆さまが、自社で開催するイベントや新製品の情報などを自ら発信することができます。



毎週月曜日、「ふくいナビ」の情報の中からタイムリーな情報をお届けするメルマガジン『週刊！ふくいナビ情報』を配信しています。配信をご希望の方はメールアドレスをご登録ください。

お問い合わせ先
ふくいナビ運営事務局
【(公財)ふくい産業支援センター One to Oneサービス推進部】
TEL.0776-67-7425 E-mail info@fukui-navi.gr.jp



本誌「F-ACT(ファクト)」を活用して会社をPRしよう！

企業情報メール便

販路開拓のチャンス！
本誌にチラシを同封できます

本誌では、企業情報メール便（チラシ同封サービス）を毎号実施いたします。配送先は、県内事業所約1,700社です。この機会に、貴社の商品・サービスを幅広く紹介しませんか？



●次回実施号
VOL.64 3月25日発行予定
チラシ提出締切日：3月18日(月)
チラシ1,700部をご提出
(持参または配送) 願います。

	同封するチラシ・パンフレットのサイズ	料金(税込)
料金	A 4判以下のチラシ	6,600円
	A 4判超～A 3判以下のチラシ (二つ折にしてA 4判以下のサイズにすること)	9,900円
	A 4判以下のパンフレット (10ページ程度まで)	13,200円

※チラシ・パンフレット1種類当たり1回分の同封料金です。

ご利用を検討の方は、事前に、電話または電子メールにてご連絡ください。1号につき約10社まで受け付けます。なお、申込状況および掲載内容によりお断りする場合があります。

お問い合わせ先 (公財)ふくい産業支援センター F-ACT担当
TEL.0776-67-7425 E-mail kouhou@fisc.jp

本誌に関するお問い合わせは

fisc 公益財団法人 ふくい産業支援センター <https://www.fisc.jp/>
One to Oneサービス推進部
TEL 0776-67-7425/FAX 0776-67-7429/E-mail : kouhou@fisc.jp
〒910-0296 福井県坂井市丸岡町熊堂第3号7番地1-16 (福井県産業情報センタービル内)

皆様の声を
お聞かせください!!

「〇〇が面白かった、ためになった」、
「△△をもう少し□□にしたらどうか」、
「●●のテーマについて紹介して欲しい」、
「▲▲会社がやっている■について取り上げて欲しい」など、本誌を読んだ感想や、要望など、皆様のご意見をお待ちしております。

編集後記

こんにちは！最後まで読んでいただきありがとうございます。

2024年最初のF-ACTが完成しました。今号では「若者の攻め手」と題し、福井県にゆかりのある若手経営者にお話を伺って参りました。若手経営者がどのように事業を発想していったのか、また若手経営者の考え方や着眼点には気づきや発見も多かったのではないのでしょうか。今回の特集が新たな発想やアイデアを得るきっかけになれば幸いです。取材にご対応いただいた皆様にも、改めて御礼申し上げます。

実は本誌F-ACT、今年度で発行から10年目を迎えました。これまで発行を続けることができたのも様々な方々のご協力あってのことです。気を引き締めて、これからもお役に立つ情報をお届けできるよう努めていきます。また、今号には読者アンケートも同封しておりますので、ぜひご意見をお寄せください。

次号の発行は3月25日を予定しております。引き続きご愛読のほど、よろしくお願いたします。



イカ丼ホトホワイト

- ・急速冷凍イカ(若狭湾)
- ・特製出汁醤油
- ・うずらの卵
- ・山芋
- ・大葉
- ・海苔 (彌右衛門さん)
- ・ご飯 (美浜町コシヒカリ)

はるか丸

若狭のイカを名物に
キッチンカーでイカ料理を提供

昨年10月、美浜町にイカ料理を提供するキッチンカーが誕生しました。オーナーを務めるのは小山田はるかさん。父が漁師をしていた頃の漁船から名前をとり「はるか丸」と名付けました。

嶺南地域を中心に、地域のイベント開催時に来店しイカ料理を提供。小山田さんは「春にはケンサキイカ、秋にはアオリイカ、冬はヤリイカと通年でイカが獲れる地域は珍しい。若狭のイカをもっと多くの人に知ってほしいと考え、開業しました」と話します。開業後はSNS等で反響を呼び、来店時には多くのお客様が訪れるそうです。

メニューはイカ丼(ホワイト・ブラックの2種類)、イカのから揚げ、イカ焼きの3種類が中心で、1番人気のイカ丼には急速冷凍したとれたてのイカを使用。お客様からも好評を得ています。「イカの調理法が分からない、さばけないといった声を聞いていたのも開業のきっかけの一つです。キッチンカーでイカ料理を提供していくことで、イカの美味しさと魅力を伝えていきたいですね」と小山田氏。「新幹線開業ももう間近になってきました。若狭のイカを福井の名物にできれば」と意気込みます。

活用事業：福井県よろず支援拠点

ご来店
お待ちしております！



はるか丸

住所：三方郡美浜町金山22-31
営業日：地域のイベント開催時など、
不定期で営業
URL
<https://www.instagram.com/harukamarudayo/>

話題の
新スポット巡礼

県内企業が打ち出した気になる新スポットに、本誌編集部が訪問。その空間に込められたコンセプトやこだわり、企業の想いをお届けします。

No.35

中小企業

個人事業主

フリーランス

の皆さん

取引上の悩み

抱えていませんか？



知財の侵害・保護



代金の未払い



受取拒否



買ったたたき



返品



不当なやり直し



値引き



下請かけこみ寺
にご相談ください!

「下請かけこみ寺」では、中小企業・個人事業主・フリーランスの皆さんが抱える取引上の悩み相談をお受けします。問題解決に向けて、専門の相談員や弁護士がアドバイスを行います。



悩んだらここに相談を!

福井県
下請かけこみ寺



相談無料

全国48か所

中小企業・個人事業主・フリーランスの皆さんの取引上の悩み相談をお受けします。

秘密厳守

匿名相談可能



0120-418-618

【受付時間】 平日9:00~12:00/13:00~17:00 (土日・祝日・年末年始を除く) 携帯電話からもご利用になれます。最寄りの「下請かけこみ寺」につながりますので、福井県のご相談者の方は福井県内からフリーダイヤルにお電話ください。

「下請かけこみ寺」は、下請取引の適正化を推進することを目的として国(経済産業省 中小企業庁)が全国48カ所に設置した相談窓口です。本部(公益財団法人全国中小企業振興機関協会)と各都道府県に設置された中小企業振興機関(福井県は公益財団法人ふくい産業支援センター)に設置されています。